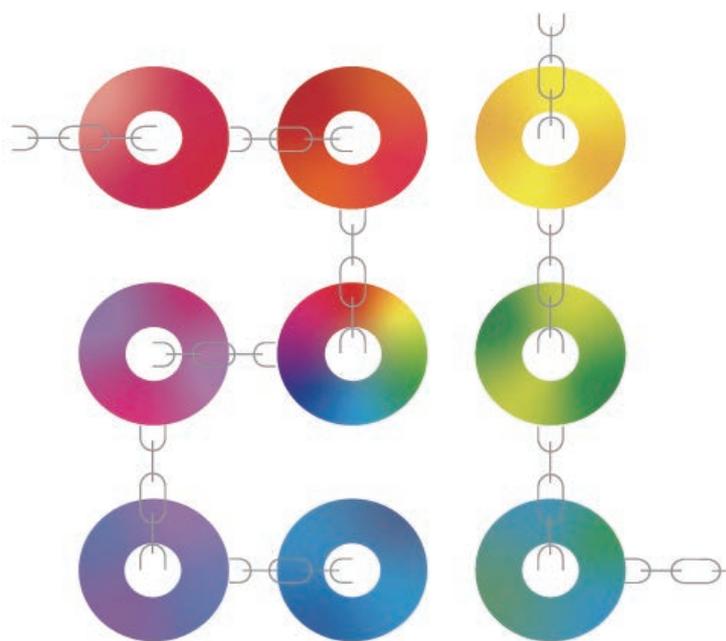


Japanese Association of Qualitative Psychology

# 日本質的心理学会

## 第21回大会

あむ、  
あまれる、  
あみなおす



日程

2024年

10/19<sub>土</sub>・20<sub>日</sub>

開催場所

成城大学 7号館

東京都世田谷区成城6-1-20 (小田急線 成城学園前駅 徒歩4分)

準備  
・  
実行委員長

青山征彦 (成城大学)

## 4. スケジュール

10/19 (土) 地下1階学生ラウンジ 711教室 721教室 722教室 723教室 731教室 732教室 733教室

830 受付開始

|     |                                   |  |                      |                     |
|-----|-----------------------------------|--|----------------------|---------------------|
| 930 | 会員企画シンポジウム1<br>道具と身体<br>企画：飯田 奈美子 | 会員企画シンポジウム2<br>対人支援における支援者の<br>質的変容<br>企画：田代 順 | ポスター<br>(優秀賞選考セッション) | ポスター<br>(一般発表セッション) |
|-----|-----------------------------------|--|----------------------|---------------------|

1000

1030

1100

1130

1200

1230

1300

|                                    |  |  |                                       |   |
|------------------------------------|--|--|---------------------------------------|---|
| 会員企画シンポジウム3<br>悩み方の作法<br>企画：角南 なおみ | 会員企画シンポジウム4<br>TEA（複線経路等至性アプ<br>ローチ）の可能性<br>企画：サトウ タツヤ | 研究交流委員会企画<br>シンポジウム<br>未来に向けたナラティブ<br>の力<br>企画：杉山 高志・安齋 聡<br>子・佐藤 由紀・杉浦 彰子 | 会員企画シンポジウム5<br>質的研究をあみなおす<br>企画：楠見 友輔 | 会員企画シンポジウム6<br>アートベース・リサーチ<br>が拓く質的研究の可能性<br>企画：青山 征彦 |
|------------------------------------|--|--|---------------------------------------|---|

1330

1400

1430

1500

1530

1600

1630

1700

|  |  |  |
|--|--|--|
| 会員企画シンポジウム7<br>AIが質的研究をどう変えて<br>いくか<br>企画：薛 海升 | 常任理事会企画<br>シンポジウム<br>日韓若手研究者による<br>質的研究の展開<br>企画：伊藤 哲司 | 招待講演<br>アートベース・リサーチ<br>とソーシャルフィクショ<br>ンのパワーと可能性<br>ハトリシア・リーヴィー |
|--|--|--|

1730 懇親会受付開始 (17:45)

1800 懇親会

1900

10/20 (日)

地下1階学生ラウンジ 711教室 721教室 722教室 723教室 731教室 732教室 733教室

830 受付開始

|      |  |   |   |   |   |                     |
|------|--|---|---|---|---|---------------------|
| 930  | 会員企画シンポジウム8<br>権威・登壇等至性アプローチ<br>における分岐点の捉え方<br>企画：上川 多恵子 |   | 会員企画シンポジウム9<br>ビジュアル・ナラティブと<br>メタファーの力<br>企画：横山 草介・やまだ<br>ようこ | ポスター<br>(優秀賞選考セッション)  | 会員企画シンポジウム10<br>記号論的文化的心理学の理論<br>的展開の議論<br>企画：清田 明暢・宮下 太<br>陽・土元 哲平<br>総会 (11:45~12:45) | ポスター<br>(一般発表セッション) |
| 1000 |  |   |   |   |   |                     |
| 1030 |  |   |   |   |   |                     |
| 1100 |  |   |   |   |   |                     |
| 1130 |  |   |   |   |   |                     |
| 1200 |  |   |   |   |   |                     |
| 1230 |  |   |   |   |   |                     |
| 1300 | 講習会<br>ヴァルシナー先生との対話<br>講師：ヤーン・ヴァルシ<br>ナー                 | 会員企画シンポジウム11<br>ASD・NT間の共生的な規<br>範的行為形成を目指す支援<br>企画：山本 登志哉    | 会員企画シンポジウム12<br>「ゲームをつくること」に<br>よる関係性のあみなおし<br>企画：石田 善美       | 質的心理学研究編集委員会<br>企画シンポジウム<br>『コンフリクト』と向き合<br>う<br>企画：上手 由香・綾城 初<br>穂 | 質的心理学フォーラム編集委員<br>会企画シンポジウム<br>研究者の偶然性と当事者性<br>企画：北尾 尚大・町田 奈緒士・<br>松浦 李恵・郡司 菜津美         |                     |
| 1330 |  |   |   |   |   |                     |
| 1400 |  |   |   |   |   |                     |
| 1430 |  |   |   |   |   |                     |
| 1500 |  |   |   |   |   |                     |
| 1530 | 会員企画シンポジウム13<br>言説分析と社会的課題                               | 会員企画シンポジウム14<br>アロマセラピー実践の可能<br>性<br>企画：川野 健治・ハッ塚<br>一郎・岡部 大祐 | 会員企画シンポジウム15<br>メディア芸術作品のマルチ<br>モーダル投射論<br>企画：阿部 廣二           | 会員企画シンポジウム16<br>「土地の力」を感じる<br>企画：村本 邦子・伊藤 哲<br>司                    | 会員企画シンポジウム17<br>特別支援教育を「あみなお<br>す」ための方法論<br>企画：海老田 大五朗                                  |                     |
| 1600 |  |   |   |   |   |                     |
| 1630 |  |   |   |   |   |                     |
| 1700 |  |   |   |   |   |                     |
| 1730 |  |   |   |   |   |                     |

会員企画シンポジウム 16    10月20日(日)    15:30-17:30    723教室

**「土地の力」を感じる  
ーショートビデオエスノグラフィーの試みー**

企 画： 村本邦子（立命館大学大学院人間科学研究科）  
伊藤哲司（茨城大学人文社会科学部）

会員企画シンポジウム 17    10月20日(日)    15:30-17:30    732教室

**特別支援教育を「あみなおす」ための方法論  
ー学びの実践×ニューマテリアリズム×現象学ー**

企 画： 海老田大五朗（新潟青陵大学）

## 特別支援教育を「あみなおす」ための方法論

ー学びの実践×ニューマテリアリズム×現象学ー

企画・指定討論： 海老田大五郎（新潟青陵大学）

司会・指定討論： 横山草介（東京都市大学）

話題提供： 引地達也（フェリス女学院大学）

話題提供： 楠見友輔（信州大学）

話題提供： 呉文慧（田園調布学園大学）

### 「あみなおす」ための方法とは

日本質的心理学会第21回大会の大会テーマは「あむ、あまれる、あみなおす」と掲げられ、従来の心理学の「人間の主体性を個人に閉じたものとして考え」る、閉じた見方への反省が促されている。こうした本学会の提案に対してはおおむね同意する一方で、問われてしかるべきは、人びとの「あむ、あまれる、あみなおす」を明らかにする研究方法論ではないだろうか。私たちはどのような研究方法によって、「あむ、あまれる、あみなおす」実践を明らかにすることができるのか。あるいはこのような方法論を問うということ自体が、どこか誤った方向づけなのであろうか。さらにいえば、「あむ、あまれる、あみなおす」実践は、研究者の問いである以前に、実践にかかわる人びとたちの問いでもあるはずである。

そこで本シンポジウムでは、研究対象領域を特別支援教育的な実践に絞り、学びの実践を報告しつつ、研究方法論についての主張をぶつけ合うことで、学びをあむ、学びがあまれる、学びをあみなおす実践を明らかにするための方法論を提案することを目的とする。

### 話題提供1：みんなの大学校における学びの実践（引地達也）

みんなの大学校とは、各種障がいのある方や疾患等で支援が必要な方のためのウェブ上を基本とした「学びの場」である。18歳以上の方で障害者手帳を所持する人もそうでない人も、「学びたい」気持ちのある人が入学可能である。国が行う福祉サービス事業でもなく、公的な教育事業ではないが、現代の支援が必要な方の学びたいというニーズを研究し、新しい学びの形を実践する中で、生まれた新しい学びの形である。

みんなの大学校における提供する学びは、「高等」教育機関として、ケアの思想を備えた深く広い教養を目指している。ウェブ上でつながり、学び、時にはスクーリングで交流をしながら、教員と学生、スタッフやボランティアが交じり合いながら、共生社会における「インクルーシブ」な学びを実現している。

今回は、みんなの大学校における学びの実践を報告することで、学びの「あみなおし」を明らかにするための方法論的議論の基盤を提供する。

## 話題提供 2 : 物と人の対称性への注目 : ニューマテリアリズムから (楠見友輔)

マイノリティを通して見えてくる社会の抑圧の問題は、多くの質的研究者が取り組んでいる重要なトピックの一つである。私も、知的障害のある子どもの排除の問題に関心を持っており、その問題をどのように解決するかについて検討してきた。これまで質的研究者は、マイノリティが直面している局所的で複雑な事実に向けるために、声、言説、物語、アイデンティティなどに注目してきた。しかし、最近私は、これらのデータが含意する人間中心主義が、マイノリティへの抑圧をむしろ再生産している恐れがあると考えている。本シンポジウムでは、社会における差別や不平等を解消するための方法として、伝統的な質的データが持つ限界を指摘する。その上で、現在私が行っている「教材」に関する研究を紹介しながら、物と人を対称的に捉えるニューマテリアリズムを用いて、人間中心主義のデータを再考することを試みる。

## 話題提供 3 : 特別支援教育におけるポスト／現象学の展望 (呉文慧)

本報告では特に自閉スペクトラム症 (以下, ASD) 教育実践に焦点を当て、教師が彼／彼女らのコミュニケーションにおいて発揮した実践知を探究する。ASD のある子どもは定型発達の「我々」に比して異質な経験構造を有する「他者」として表象されることが多い。こうした「他者」とのコミュニケーションは、それを成立させている実践者自身にもはっきり自覚できないような前意識的な領域、つまり〈身体〉の次元で行われることが多い。そこで本報告では〈身体〉を扱う現象学が、多様な「他者」と関わる特別支援教育において重要な方法論であると提起する。さらに本報告では特別支援教育、とりわけ特定のモノにこだわることの多い ASD 教育において、モノが子どもや教師に媒介し、彼／彼女の〈身体〉をモノと人間とのハイブリッドを創発するという考えに着目する。そしてこのようなハイブリッドな存在様態を探究するポスト現象学が、今後重要になると主張する。

## Methodology for 'reassembling' special needs education

Learning practices x New Materialism x Phenomenology

Daigoro Ebita (NIIGATA SEIRYO University), Planner, Discussant

Tatsuya Hikichi (FERRIS University), Presenting Author

Yusuke Kusumi (SHINSHU University), Presenting Author

Bunkei Kure (DEN-EN CHOFU University), Presenting Author

Sosuke Yokoyama (TOKYO CITY University), Moderator, Discussant

Language: Japanese